

**平成30年度
芦屋市文化推進基本計画評価報告書**

芦 屋 市



◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価表

重点取組項目/施策の方向性	第2次文化推進基本計画での位置づけ	NO	施策・事業名	新規継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費(単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))								
												指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアングル等)		
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (1)誰もが文化を身近に楽しめる仕組みづくり		1	さくらまつり開催支援	継続	コミュニティの活性化とふるさとづくりの推進	さくらまつり協議会への活動助成及び安全対策への助成	さくらまつりを運営するための協議会が集まりにくい。さくらまつり協議会の主体的な運営	誰もが参加できる安全に配慮したまつりの開催	4月1日、2日	声屋川東側遊歩道(次正橋~国道2号東平橋間)・声屋川河川敷特設ステージ	3,515	参加者数	人	16,500	15,500	現状維持	B	◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		2	ふれ愛シネサロン	継続	人権課題や平和・教育問題をテーマとした映画を通して、人権意識の高揚を図る	人権課題や平和・教育問題をテーマとした映画の上映	幅広い年代の参加		8月5日、2月3日	上宮川文化センター	519	参加者数	人	359	360	現状維持	A	◎											◎	◎						
		3	あしや山まつり	継続	市民が自然に親しむ	ハイキング、木工教室、森林啓発、水 Rocket、コンサート等などの文化に親しむ。	自然に親しむ内容がやや薄。	自然に親しむ内容を充実させる。	5月14日	奥池あそびの広場	535	参加者数	人	450	700	増加	B	◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		4	あしや秋まつり開催支援	継続	地域の多世代交流を推進し、農村文化の継承	秋まつり協議会への活動及び安全対策支援	もともとの収穫祭としての要素が薄れている。	開催場所や内容について検討を行っている。	10月8日	精選小学校校庭	4,654	参加者数	人	5,500	5,500	増加	B	◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		5	ワンコインシアター	継続	人権啓発の推進	名作映画の上映会実施	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	行事を通じて上宮川文化センターの利用につなげる。	年3~4回	上宮川文化センター	0	参加者数	人	441	386	増加	C	◎											◎	◎						
		6	ヒューマンライツシアター	継続	人権啓発の推進	人権・平和・環境に関する映画を上映することで、人権意識の高揚を図る	より集客の見込める作品をセレクトする必要がある。	今後も適切に事業を継続する。	年2~3回	上宮川文化センター	423	参加者数	人	535	599	現状維持	S	◎											◎	◎						
		7	保健福祉フェア	継続	声屋市内の保健・福祉の関係団体等と一体となり、保健福祉センターと声屋市の保健福祉事業の周知啓発を行う	保健福祉センターの事業内容の紹介と地域福祉や障がい福祉、高齢福祉事業の啓発、食育や健康増進の啓発を目的とし、イベント形式でフェアを行う。	市民の方に声屋市の保健福祉の取組をより知っていただけるような、企画内容の充実が必要	今後も継続して実施することで保健福祉センター機能の周知を図っていく。	7月第4土曜日	はなみずき声屋【保健福祉センター・木口記念会館・あしや温泉(足湯)】	104	参加人数(延べ)	人	8,202	9,058	現状維持	B	◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		8	サマーカーニバル開催支援	継続	イベントを通じたコミュニティの推進	声屋市民まつり協議会への活動助成及び交通安全対策への助成	南声屋浜地区の整備が完了に近づいており、イベントの開催と周辺住民及び住民の安全対策を両立する必要がある	市の規模とイベントの規模を比較し、コミュニティの推進のために適切な規模のイベントを目指す	4/30	声屋市総合公園 瀬戸原緑地 瀬戸原ビーチ	4,000	参加者数	人	98,950	98,450	現状維持	B	◎											◎	◎	◎					
		9	ママ/パパのための料理セミナー	新規	声屋市の学校給食のPRと食についての関心を高めるために実施	市内小中学校に子どもを連れてくる保護者対象の料理教室(1回)市内、市外の方が幅広く参加できる料理教室	学校給食を通して食への興味関心を広げる。	29年度は声屋市のプロモーション事業の1つであったが、30年度からは学校教育課独自の事業として推進していく。	11月~1月	福祉センター 声屋学園短期大学	643	参加人数(4回)	人	-	120	現状維持	B	◎										◎								
		10	秋の大人が楽しむおはなしの会	継続	おはなし、読書の楽しさを伝える	大人を対象としたおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	11月29日	図書館	0	参加者数	人	33	34	減少	A												◎		◎	◎				
		11	大人が楽しむおはなしの会	継続	おはなし、読書の楽しさを伝える	大人を対象としたおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	2月21日	図書館	6	参加者数	人	44	47	現状維持	A												◎		◎	◎				
		12	金曜シネサロン	継続	文化に触れ、憩える場の提供	名画の上映会	プログラムの工夫	図書利用等につなげる事業にする	毎月2回	図書館	0	参加者数	人	1,262	1,616	減少	B										◎	◎	◎	◎	◎					
		13	資料の収集・保存・提供	継続	市民等の知的欲求に応える	資料の収集・保存・提供	声屋市文化ゾーンとの連携等	市民等のニーズを踏まえた資料提供	通年	図書館	23,949	資料受入冊数	冊	15,287	14,029	現状維持	A	◎											◎							
		14	平和の鐘を鳴らそう	継続	戦中・戦後をしのび、平和を祈念するユネスコ活動の支援	終戦記念日である8月15日に市民センターにある歴々の鐘を鳴らし平和を祈り、戦争にまつわる話を聞き、平和について考える。	戦争を知っている世代の減少	過去の悲惨な出来事を繰り返さないよう、平和の尊さを啓発、継承して行くユネスコ活動を引き続き支援する。	平成29年8月15日	市民センター本館玄関前(平成29年度のみ)	0	参加者数	人	80	60	増加	B	◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		15	市民センター管理運営	継続	市民センター施設の管理運営、貸出し	市民センター施設の管理運営、貸出し	老朽化している設備が多いため、継続して維持管理していくこと。	今後も良好な施設管理を維持する。	通年	市民センター・公民館	66,226	件数	件	15,515	15,655	現状維持	B	◎											◎							
		16	【市民センター】	継続	グループ・団体等の日頃の成果を発表する場を提供する	市民センター施設の管理運営、貸出し	参加団体の増加。	今後も現状の事業レベルを維持する。	10/15~11/12	ルナ・ホール・小ホール	441	団体数	団体	12	9	現状維持	A	◎										◎	◎							
	17	継続		市民ギャラリーグループ・団体等の日頃の成果を発表する	市民センター施設の管理運営、貸出し	参加団体の増加。	今後も現状の事業レベルを維持する。	10/7~11/9	市民センター・公民館	団体数		団体	14	15	現状維持	A	◎											◎	◎							
	18	継続		市民の日頃の成果を発表する場を提供する	市民センター施設の管理運営、貸出し	参加団体の増加。	今後も現状の事業レベルを維持する。	9/6~9/10	市民センター	286		出品者数	人	40	42	現状維持	B	◎											◎	◎	◎					
		19	【ルナ・ホール事業】	継続	映画芸術に親しむ	いきいきシネマサロン映画「この世界の片隅に」、映画「団地」、映画「湯を沸かすほどの熱い愛」、映画「家族はつらいよ2」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	7/22、9/23、11/25、3/17	ルナ・ホール	13,500	来場者数	人	2,912	2,656	現状維持	A	◎											◎	◎	◎					
	20	継続		あしやティアフル映画祭	いきいきシネマサロン「ベット」(子ども)映画「ベット」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	12/23	ルナ・ホール	来場者数		人	515	529	現状維持	A	◎												◎	◎	◎					
	21	継続		親子で映画に親しむ	いきいきシネマサロン「ベット」(子ども)映画「ベット」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	7/29	ルナ・ホール	来場者数		人	698	769	現状維持	B		◎											◎	◎	◎					
	22	継続		文学に親しむ	声屋文学サロン「富田砕花と谷崎潤一郎」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	10/1	ルナ・ホール	来場者数		人	443	358	現状維持	A	◎													◎	◎					
	23	継続		映画とトーク「細雪」	声屋文学サロン「富田砕花と谷崎潤一郎」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	1/20	ルナ・ホール	来場者数		人	-	498	現状維持	A	◎													◎	◎	◎				
	24	継続		文化・芸術に親しむ	声屋能・狂言鑑賞の会	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	11/16	ルナ・ホール	来場者数		人	-	435	現状維持	A	◎													◎	◎	◎				
		25	継続	落語に親しむ	市民寄席「ざこば南塩鯛三人会」	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	11/24	ルナ・ホール	来場者数	人	545	552	現状維持	A	◎												◎	◎	◎						
		26	継続	音楽に親しむ	松永貴志ライブ	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	2/17	ルナ・ホール	来場者数	人	376	382	現状維持	A	◎												◎	◎	◎						

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票

重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規 継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施 期間	実施 場所	平成29年度 事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))										
											指標名	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標		市民 全般	男性	女性	乳幼児	小学生	成人	高齢者	障がい のある 人	外国人	その他	広報 あしや	市HP	ウェブ サイト (市HP 以外)	ポス ター チラシ	SNS	TV 新聞等	その他 (あしやトラ イあんぐる 等)				
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (2)文化活動を通じた地域のつながりづくり	47	【公民館講座】	継続		・田辺真人先生の「文化の歴史」講座 募集定員90名、月1回(全6回)の歴史講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	従来から継続している人気のある講座で、今後も継続して実施する。	10/19~3/15	市民センター・公民館	7,000 (再掲)	受講者数	人	71	78	現状維持	A	◎											◎	◎	◎							
	48		継続	阪神間や芦屋等の歴史・文化を学ぶ機会を設ける	・芦屋で暮らした人々 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	1/13~3/10	市民センター・公民館		受講者数	人	78	109	現状維持	A	◎												◎	◎	◎						
	49		新規		・ちめめ海に広がる神話の世界 募集定員90名、月1回(全2回)の歴史講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	1/26~2/23	市民センター・公民館		受講者数	人	-	70	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	50		新規		・健康ハイキング講座 募集定員20名、全9回、講師とともに山を歩く野外講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。学ばれた受講者が案内人として活躍できるようにしたい。	9/25~12/4	市民センター・公民館		受講者数	人	-	29	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	51		新規	健康を学ぶ機会を設ける	・篠崎先生の精神医学講座 募集定員90名、月1回(全3回)の精神医学講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	1/27~3/31	市民センター・公民館		受講者数	人	-	54	現状維持	B	◎													◎	◎	◎					
	52		継続		・芦屋大学公開講座 募集定員90名、全2回の芦屋大学と共催で実施する健康講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も芦屋大学との共催をしながら、良好な講座を実施する。	2/3~2/24	市民センター・公民館		受講者数	人	115	36	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	53		継続	病気や医療の知識を深める機会を設ける	・芦屋病院公開講座 募集定員80名、全5回の芦屋病院と共催で実施する健康講座	講座のテーマによって参加者にばらつきがある。	関心の薄いテーマであっても、万遍なく講座を行う必要がある。引き続き、1回のみ受講者を受け入れる。	4/8~8/5	市民センター・公民館		受講者数	人	17(1回だけの受講者258人を含めない)	11(1回だけの受講者267人を含めない)	現状維持	A	◎												◎	◎	◎						
	54		継続	科学や技術を学ぶ機会を設ける	・サイエンス講座-現代を生かすための脳科学 募集定員90名、月1回(全3回)のサイエンス講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/15~6/24	市民センター・公民館		受講者数	人	39	85	現状維持	B	◎													◎	◎	◎					
	55		継続	インターネット検索など、日常生活に即したパソコンの使用を目的に、学習する機会を設ける	・初心者向けパソコン講座 募集定員15名、全4回のパソコン講座	受講者のレベル差があるため、どのレベルをターゲットにするかが難しい。	講座を受講した方々が講師になっていただくようにする。常に受講者のニーズを把握する。	6/9~6/30	市民センター・公民館		受講者数	人	10	5	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	56		新規	経済・歴史を学ぶ機会を設ける	・経済学講座「経済学は何を答えようとしてきたのか」 募集定員90名、月1回(全3回)の経済学講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	7/20~9/7	市民センター・公民館		受講者数	人	-	43	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	57		新規	心理学を学ぶ機会を設ける	・心理学講座(生涯いきいき心の健康を心理学から考える) 募集定員90名、月1回(全3回)の心理学講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	7/27~9/7	市民センター・公民館		受講者数	人	-	67	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	58		新規	死生学を学ぶ機会を設ける	・死生学講座「生きる」を考える 募集定員90名、月1回(全2回)の死生学講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	8/12~9/9	市民センター・公民館		受講者数	人	-	67	現状維持	B	◎													◎	◎	◎					
	59		継続	病気や医療の知識を深める機会を設ける	・芦屋病院公開講座 募集定員80名、全6回の芦屋病院と共催で実施する健康講座	講座のテーマによって参加者にばらつきがある。	関心の薄いテーマであっても、万遍なく講座を行う必要がある。引き続き、1回のみ受講者を受け入れる。	10/7~3/3	市民センター・公民館		受講者数	人	16(1回だけの受講者315人を含めない)	5(1回だけの受講者221人を含めない)	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	60		継続	科学や技術を学ぶ機会を設ける	・サイエンス講座-宇宙物理学入門 募集定員90名、月1回(全3回)のサイエンス講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	10/14~12/9	市民センター・公民館		受講者数	人	39	65	現状維持	B	◎													◎	◎	◎					
	61		継続	時事問題の知識を深める機会を設ける	・世界はニュースだけではわからない 募集定員90名、月1回(全6回)の時事問題講座	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	10/21~3/17	市民センター・公民館		受講者数	人	91	79	現状維持	B	◎													◎	◎	◎					
	62		継続	外国人に対して日本語の会話、読み書きを学ぶ機会を設ける	・にほんごがっきゅう 全50回の日本語を教える講座(通年)	参加者が増えると講師の確保が困難となる。	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/6~3/29	市民センター・公民館		延べ参加者数	人	317	223	現状維持	B						◎							◎	◎	◎						
	63		継続	歴史・文化や教育等を学ぶ機会を設ける	・家庭教育セミナー 消費生活セミナー 平和事業講演会等、年12回実施	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	通年	市民センター・公民館		延べ参加者数	人	1,501	1,014	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	64		継続	歴史・文化・科学・美術等を学ぶ機会を設ける	・NHK公開セミナーの共催事業 全3回のNHKと共催で実施するセミナー	NHKとの共催事業のため、実施できるかはNHK次第である。	今後もNHKとの共催をしながら、良好なセミナーを実施する。	10/6/10/12/1/29	ルナ・ホール		延べ参加者数	人	1,295	1,679	現状維持	A	◎													◎	◎	◎					
	65		継続	親子で学ぶ機会を設ける	・子ども教室 モルアート教室 オカリナ教室 子どもクッキング等、年15回実施	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	基本的には現在の内容で十分であるが、新しい要素を取り入れられないか検討する。	7/31~8/25	市民センター・公民館		延べ参加者数	人	376	424	現状維持	A													◎	◎	◎						
	66		新規	学校卒業後の視覚障がい者に対して身体障害者社会福祉を開設し、社会人としての教養や知識を習得し、交流の場を設ける	・阪神青い鳥学級南支部芦屋教室 視覚障がい者による等、ピアノの演奏、陶芸教室、ストレッチ、落語、交流の場を設ける	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	尼崎市・西宮市・芦屋市で3年に1回担当市となる。	9/15~10/27	公民館音楽室 あしやの村		受講者数	人	-	26(芦屋市からの参加者)	現状維持	A							◎						◎	◎	◎						
67	新規		・〜貴志康一 没後90年〜貴志康一のバイオリン曲と美しいピアノトリオ	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	5/20	公民館音楽室	参加者数	人	-	116	現状維持	A	◎													◎	◎	◎								
68	継続		・竹中真ジャズピアノコンサート 〜ジャズで聴く夏の歌〜	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	7/15	公民館音楽室	参加者数	人	89	135	現状維持	A	◎													◎	◎	◎								
69	新規	音楽の知識を深める機会を設ける	・ハッピーツインズ 情熱のヴァイオリンデュオ	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	9/30	公民館音楽室	参加者数	人	-	123	現状維持	A	◎													◎	◎	◎								
70	新規		・花井結 ヴァイオリンコンサート	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	12/16	公民館音楽室	参加者数	人	-	130	現状維持	A	◎													◎	◎	◎								

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票

第2次文化推進基本計画での位置づけ 重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規 継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施 期間	実施 場所	平成29年度 事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))											
											指標名	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標		市民 全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がい のある 人	外国人	その他	広報 あしや	市HP	ウェブ サイト (市HP 以外)	ポス ター チラシ	SNS	TV 新聞等	その他 (あしやトラ イあんぐる 等)					
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (2)文化活動を通じた地域のつながりづくり	71	【公民館音楽会】	継続	音楽の知識を深める機会を設ける	・スプリングコンサート歌曲の申し込み	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	3/3	ルナ・ホール	500 (再掲)	参加者数	人	99	128	現状維持	A	◎												◎	◎		◎						
	72	【公民館】	継続	展示場を使用し、芦屋の歴史や文化を学ぶ機会を設ける	・常設展示事業 7月14日～8月16日 平和展「阪神間文学に見る 大戦下の街と暮らし」 8月18日～9月1日 芦屋のペット大集合写真展 9月20日～10月2日 絆花をめぐる文豪と文化人 3月24日～31日 桜が似合う街写真展	閑散期である冬場に展示をどのように行うか。	民間委託による事業であり、質・量ともに委託事業者と協議の上、向上させたい。特に閑散期である冬場に常設展示できるように協議していく。	7/14～3/31	公民館展示場	400	回数	回	2	4	増加	B	◎											◎	◎		◎							
	73	公民館ギャラリー	継続	展示場を使用し、市民団体の成果発表を行う場を提供する	芦屋さくらまつり写真コンクール世界の切手展 芦屋市コミスク合同文化展 等	現在の事業レベルを下げずに次年度以降も実施できるか。	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/1～2/26	公民館展示場		回数	回	17	18	現状維持	A	◎												◎	◎		◎						
	74	【公民館】芦屋川カレッジ3・4期生	継続	高齢者大学	芦屋川カレッジ3・4期生 必須コース 選択コース (和文文化探訪、世界探訪)	カレッジ受講生を増やす取組が必要である。	今後も現状の事業レベルを維持する。	5/10～3/14	市民センター・公民館	7,000	受講者数	人	91	72	増加	B													◎	◎								
	75	【公民館】芦屋川カレッジ聴講生	継続		芦屋川カレッジ聴講生 必須コース 選択コース (和文文化探訪、世界探訪)	受講生が減少傾向にあること。	今後も現状の事業レベルを維持する。	5/10～3/14	市民センター・公民館		受講者数	人	125	136	現状維持	A														◎	◎							
	76	【公民館】芦屋川カレッジ大学院	継続		日本と世界の舞台芸術	受講生が減少傾向にあること。	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/24～3/26	市民センター・公民館		受講者数	人	107	114	現状維持	A														◎	◎							
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (3)ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興	77	人権啓発展示会	継続	人権啓発の推進	同和問題をはじめ日本社会における重要な人権課題や、平和・教育問題をテーマに展示会を行い、啓発の場とする。	総合的に本事業の効果を判断する必要がある。	今後も適切に事業を継続する。	2月15日～3月1日	上宮川文化センター	0	掲示パネル数	枚	40	59	現状維持	A																						
	78	リーダー養成講座	継続		同和問題をはじめ日本社会における重要な人権課題や、平和・教育問題をテーマに講演会を実施し、啓発の場とする。	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	今後も適切に事業を継続する。	2月15日～3月1日	上宮川文化センター	31	参加者数	人	82	59	増加	C	◎													◎	◎							
	79	エントランスコンサート	継続	保健福祉センターが地域福祉の拠点として市民の憩いの場となるよう周知啓発を行う	毎月第4日曜日、エントランスホールに設置のピアノを使用してコンサートをを行う。	障がいのある人の出演や手話歌を取り入れるなどの福祉の理解・啓発を進める福祉センターの特色を生かした事業運営が必要	今後も手話歌レッスンなど来場者も参加できる企画を取り入れ、継続して実施していく。	毎月1回開催(年12回開催)	保健福祉センターエントランスホール	100	参加人数	人	1,600	1,725	現状維持	B	◎											◎	◎		◎		◎					
	80	芦屋市障がい児・者作品展	継続	文化を通じた世代間交流	多くの市民に障がい児・者への理解を深めてもらうことを目的に作品を展示。	平成29年度から障害者週間及び年末の集いに合わせて、実施期間を変更したことにより、鑑賞者と感想文の提出者数が増加したが、まだまだ市民への認知度が低いと思われる。(障がい団体からの出展数は12団体から16団体に増加するも、一般は4名で増加なし。)	作品展の周知に努め、一般の出展者数を増やす。	12月5日～11日	保健福祉センター1階エントランスホール及び木口記念会館1階ホール	0	障害者手帳所持者数における出展者数の割合	%	4.1	6.4	増加	A	◎			◎								◎	◎		◎							
	81	敬老会事業	継続	高齢者の生きがい支援	高齢者を招待し、演芸鑑賞を実施	対象者の選定	高齢者のニーズに合わせて内容を検討していく。	9月16日	ルナ・ホール	1,188	参加人数	人	600	600	現状維持	B													◎	◎								
	82	演芸フェスティバル	継続		高齢者を中心とした文化的活動を行っている市民グループが集い、コースや踊りなど日頃の練習の成果を披露	企画・内容・参加団体の固定化	新たな団体に参加してもらえる取組を検討していく。		1月13日	ルナ・ホール	412	参加人数	人	400	400	現状維持	B													◎	◎							
	83	Y〇倶楽部活動支援	継続		芦屋で結成された文化的活動を行う高齢者の団体への支援	会員の増加	活動が活性化できるよう支援を行う。		通年		100	会員数	人	145	148	現状維持	B																					
84	老人クラブ活動支援	継続	高齢者の地域での活動を通じた仲間づくりの支援		会員の増加	活動が活性化できるよう支援を行う。		通年		7,210	会員数	人	3,042	3,013	増加	B												◎	◎									
85	生きがいデイサービス	継続	身近な地域で高齢者のつどいの場を提供し、学芸や体操、歌や絵画等を実施。		参加人数の増加及び取組内容の変更	より多くの地域の方にご利用いただけるよう整備を行うなど、取組内容の変更を検討していく。		通年		2,488	参加人数	人	4,815	5,531	増加	S												◎	◎									
86	シルバー人材センター支援	継続	高齢者が就労を通して様々な活動を展開し、住みよい街づくりに貢献できるよう支援。	会員の増加及び取組内容の拡充	高齢者の社会参加の拠点となるような企画を行う。		通年		20,000	会員数	人	1,092	1,109	増加	B												◎	◎	◎	◎								
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (4)文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用	87	ゆうゆう倶楽部の活用	継続	高齢者の生きがい支援	小学校の敷地内に集会所を設置し、健康体操や手芸、絵画等の活動を行う市民に開放し、高齢者の居場所を提供	同じ団体の利用が大半。新規拡大に向けた参加人数及び利用回数の増加。	地域の拠点となるような企画を行う。	通年	朝日ヶ丘小学校、海見小学校	86	参加人数	人	4,065	2,890	増加	C												◎	◎									
	88	老人福祉会館の運営	継続		高齢者が囲碁や将棋等を通じて交流を深めることができる居場所の提供	利用者の増加及び内容の拡充	高齢者の社会参加の拠点となるような企画を行う。	通年	老人福祉会館	5,090	利用者数	人	27,100	26,086	増加	C												◎	◎									
	89	学校園施設目的外使用の許可	継続	交流機会の促進	条例に定めるところにより、学校園施設目的外使用の許可を行った。	学校園の運営上支障がない範囲という原則を踏まえつつ、いかに市民のかたに活動の場を提供できるかという調整を図ること。	引き続き迅速かつ適切な事務処理に努めたい。	通年	学校園	0	目的外使用の許可件数	件	232	298	現状維持	A	◎																					
	90	n i w a - d o k u	新規	芦屋市文化ゾーンの三館が連携して、文化的なイベントを実施する	美術博物館・谷崎潤一郎記念館の庭で読書を楽しむ	活動内容の検討	今後も継続・充実させる	11月4日	図書館 美術博物館 谷崎潤一郎記念館	0	参加者数	人	-	564	増加	S	◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票

重点取組項目／施策の方向性	NO	施策・事業名	新規・継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費(単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))																																												
											指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアングる等)																																						
											③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (1)暮らしに根ざした文化交流のまちづくり																	124	谷崎潤一郎記念館管理運営事業(館外事業)	継続	イベントを通じて谷崎潤一郎に関する文学に親しんでいただくこと。	・残月祭(羽田圭介氏講演) ・谷崎映画上映会(春等抄) ・現地講座(京都・源澤亭)	谷崎潤一郎という特定の作家を題材としているため、幅広い層を対象とした事業が困難である。	展示だけでなく、様々な視点からその事業を展開し、谷崎潤一郎文学への興味を持ってもらう。	7月24日(午前) 10月27日、11月1、14日	ルナ・ホール 京都・源澤亭	1,330 (過年事業費)	来場者数	人	1,522	626	増加	B	◎												◎								◎							
125	谷崎潤一郎記念館管理運営事業(文学普及事業)	継続	多様化・高度に専門化した館利用者の学習ニーズに対応する	源氏物語講座、俳句講座、スケッチ講座、白磁土絵付講座、短歌講座、歴史文学サロン、仏画講座など	谷崎潤一郎文学以外の分野での文学普及事業において、参加者がその後に谷崎潤一郎に興味を持つような事業の展開が困難。	各種広報媒体を利用して、谷崎潤一郎記念館の認知度を上げ、新たな入館者層の拡大・受講者の増加を図る。	通年	谷崎潤一郎記念館		参加者数																		人	2,506	2,719	現状維持	A	◎																																						
126	美術博物館管理運営事業(展示事業)	継続	美術博物館において、各種展示事業を実施し、来館者に美術・芸術に触れる機会を提供すること。	・春ひらく一芦屋のたからもの交差するアーティストたちー戦後の関西 ・生誕220年 広重展 ・小杉登久展 ・第64回芦屋市展 ・第35回 芦屋市造形教育展	来館のきっかけはなかったが、新たな来館者、リピーター確保のために、継続した実施が必要。	展示内容を刷新することなく、幅広い内容の展示会を実施していく。	4月1日から5月21日 6月3日から7月2日 7月15日から9月18日 10月7日から11月25日 12月9日から2月12日 2月17日から2月25日	美術博物館	20,820 (過年事業費)	入館者数																		人	19,037	24,459	現状維持	A	◎																					◎																	
127	美術博物館管理運営事業(常設展示事業)	継続	芦屋の文化財を展示し、歴史の紹介を行うことで、芦屋の歴史を学ぶ機会を創出する。	昔の人々の暮らしや芦屋の文化財を展示。	展示期間が長いので、広報・周知の方法について検討する必要がある。	積極的に周知し、特に小中学校の授業での活用を促していく。	4月1日から11月26日 12月9日から2月25日	美術博物館		入館者数																		人	19,037	24,459	現状維持	B	◎																																						
128	美術博物館管理運営事業(ワークショップなど)	継続	美術の面白さ・楽しさ・難しさを発見し、美術に親しんでいただく場をつくる。	びはくルーム 4回 ワークショップ 9回 あしやつくる場 2回	実施する内容・時期を毎年度変えているが、内容によって参加者が大きく異なるため、一定の参加者数を確保する企画が難しい。	様々な内容で実施することで、リピーターや新たな参加者増加を目指す。	通年	美術博物館		参加者数																		人	8,988	10,910	現状維持	A	◎			◎	◎																																		
129	文化ゾーン連携事業	新規	芦屋市文化ゾーンでの連携した事業を実施することで幅広い利用者の増加を目指す。	niwa-dokuの開催(3館連携) 芦屋市文化ゾーン講座の開催(全4回)	3館連携事業として実施しているが、一体感の創出が難しい。	継続して実施していく。	11/4 2/1,2/8,2/20,2/2	美術博物館 谷崎潤一郎記念館	100	参加者数																		人	—	725	現状維持	A	◎																						◎																
130	文化財普及啓発事業	継続	市内の文化財を、広報紙や冊子、イベント等を通して広く周知すること。『広報あしや』への文化財関連記事の掲載(計7回) ・文化財啓発イベント(1回) ・団体見学者の案内(計2件)	市内の文化財を、広報紙や冊子、イベント等を通して広く周知すること。『広報あしや』への文化財関連記事の掲載(計7回) ・文化財啓発イベント(1回) ・団体見学者の案内(計2件)	市内の文化財を積極的に活用することによって、その価値や魅力を市民のシビックプライドの向上につなげる。	—	—	687	—	—																		—	—	現状維持	A	◎																																							
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (2)芦屋らしい良好な住まい・景観づくり																												131	芦屋オープンガーデン	継続	花と緑いっぱいのおまじりに向けた市民との協同	花と緑のまちづくりの推進を目的に個人宅、マンション敷地、学校園、公園で活動されている個人・団体から参加を募り、庭や花壇を公開	公共施設、個人参加者の定着及び促進	花と緑いっぱいのおまじりを実施し、市民意識の向上を促す	5月13日～5月21日	市内一円	1,414	参加者数(オープンガーデン箇所)	箇所	121	127	増加	B	◎																					◎						
																												132	上宮川文化センター図書室	継続	読書活動の推進	上宮川文化センターで図書を出貸す。	貸出図書のカテゴリーの増加。	今後も適切に事業を継続する。	通年	上宮川文化センター	539	貸出利用者数	人	7,751	9,000	現状維持	S	◎																											
																												133	ストーリーテリング講座	新規	ストーリーテリングの楽しさを伝えるとともに、おはなし会等の活動者を増やす。	ストーリーテリングに基礎講座	学びを活かす機会	ストーリーテリングの講座は当面実施予定はないが、読書講演会は次年度より継続して実施する。	9月6日、10月4日、11月1日、12月6日	図書館	80	参加者数	人	—	112	減少	S	◎																											
																	134	おはなしの研究会	継続	おはなしの研究	ストーリーテリングに関する勉強会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	図書館	0	参加者数	人	193	213	減少	A																																							
																	135	こどもの本の研究会	継続	絵本の鑑賞・批評	絵本の読み聞かせに関する研鑽	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	図書館	0	参加者数	人	151	145	現状維持	B																																							
																	136	怖いおはなしのおはなし会	継続	怖いおはなしに特化したおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	8月2日、8月3日	図書館	0	参加者数	人	109	112	現状維持	A																																								
																	137	こどもおはなしの会	継続	子どもたちにおはなしや読書の楽しさを伝える	子ども対象のおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎週土曜日	図書館	0	参加者数	人	759	1,075	減少	S																																							
																	138	絵本の会	継続	子どもを対象とした絵本の読み聞かせ	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎週土曜日	図書館	0	参加者数	人	675	797	減少	A																																								
																	139	打出分室こどもおはなしの会	継続	子どもたちや大人に本の楽しさを伝える	親子を対象としたおはなしと読み聞かせ	保護者への取り組み	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	打出教育文化センター	0	参加者数	人	54	98	現状維持	A																																							
																	140	小学生の本の部屋	継続	子どもたちにおはなしや読書の楽しさを伝える	ブックトーク	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	5月28日	図書館	0	参加者数	人	13	23	現状維持	B																																							
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (3)読書のまちづくりの推進																	141	公民館図書室	継続	本に触れる機会を提供する	図書の貸出し	図書館本館と連携し、現在の事業レベルを維持すること。	今後も現状の事業レベルを維持する。	通年	公民館図書室	1,813	人数	人	15,076	14,261	現状維持	A	◎																																						
																	142	ご当地ナンバープレートの交付	継続	市内外に「芦屋らしさ」を発信する。	50cc以下の原動機付自転車ご当地ナンバープレート(2種類)の交付	交付対象が原動機付自転車(50cc以下)の所有者に限られる。	新規登録だけでなく、既存の所有者に対してもご当地プレートへの交換を働きかける。	常時	課税課管理係窓口	110	発行枚数	枚	237	273	現状維持	A	◎																																						
																	143	文化財保護事業	継続	市内の文化財を調査・研究し、文化財の価値を把握した上で保護・保存するとともに、その成果等を周知する。	・文化財調査報告書の刊行(4種類)	発掘調査の出土品等の整理・保管が十分にできておらず、数多くの調査成果が保管施設に眠ったまま活用されていない。今後、発掘調査の成果を有効に市民に発信できる環境を整備する必要がある。	市内の文化財を破壊や消滅から守り、後世に残すために、収集し、調査・研究によってその価値を明らかにする。	—	—	—	—	—	—	現状維持	A																																								

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票

第2次文化推進基本計画での位置づけ 重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規・継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費(単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))									
											指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアングル等)			
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (4)文化を通じたまちの魅力の一体的な発信	144	シティプロモーション事業	新規	本市の魅力を活かしたシティプロモーションを行うことで、市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度を向上させ、交流人口の増及び人口流入促進を図る。	PR動画の制作・放映	限られた時間のなかで、全ての文化的魅力を発信できなかったこと。	高級住宅だけではなく、芦屋市の文化的魅力をPR動画を通じて発信していく	動画公開:12月19日~	市内全域	7,345	再生回数	回	-	9,921	増加	B	◎													◎	◎		◎	◎	◎	
	145				「高産の滝」ハイキング撮影会	子育て世代の参加をもっと増加させること	実際に様々な場所に訪れることによって芦屋市の魅力発信へとつながる。	11月23日	阪急芦屋川~高産の滝	3,658	応募者数	組	-	30	-	B	◎														◎	◎				
	146				親子向け撮影会	小さいお子さま連れのためイベント実施日での訪問場所が限定されてしまうこと	実際に様々な場所に訪れることによって芦屋市の魅力発信へとつながる。	12月2日	芦屋市総合公園	3,658	応募者数	家族	-	69	-	B	◎															◎	◎			
	147				モダニズム建築撮影会	イベントを通じて特別に様々なスポットを撮影させていただけましたが、日常的には困難であること。	市内にあるモダン建築の魅力発信をイベント等を通じておこなっていく。	12月21日、22日	芦屋モノリス	3,658	応募者数	人	-	52	-	A	◎														◎	◎				
	148				親子で楽しむ芦屋クラシック体験	芦屋市立美術館を利用できる日が限られているため、毎年実施するのは日程としても困難であること。	芦屋市立美術館をはじめ文化ゾーンに訪れていただく機会を増やすこと。	平成30年3月4日	芦屋市立美術館	3,658	応募者数	人	-	1,041	-	A		◎	◎	◎	◎	◎									◎	◎	◎	◎	◎	

**平成30年度
芦屋市文化振興基本計画評価報告書**

発行日 平成30年 8月

発行 芦屋市企画部政策推進課

〒659-8501 芦屋市精道町7番6号

TEL(0797)38-2127 FAX(0797)31-4841